

緑とまちなかの魅力向上構想(概要版)



令和4年3月 朝霞市 みどり公園課

■緑とまちなかの魅力向上構想

朝霞市において魅力あるまちなかを実現するため、市の顔となる駅前や市道、緑のスポット、居心地が良く歩きたくなる街路空間を創るストリートデザインの検討や、黒目川を中心とした市内の緑の拠点をつなぐ回遊トレイルコースの検討、それに付随するサイン計画や子どもの遊び場の充実など、公園・緑地や道の空間の魅力向上方策について、具体的な検討を行うとともに、事業化に向けた構想を作成した。

具体的には次の4つのテーマについて検討を行った。

- (1) 歩きたくなる朝霞のまちなかづくり構想
- (2) 緑空間の魅力向上方策の検討
- (3) シンボルロードの機能向上構想
- (4) 国道254号バイパス沿道の活性化検討

(1) 歩きたくなる朝霞のまちなかづくり構想

ア 駅前からシンボルロードにかけての歩行空間の快適性向上の検討

- ・ 自然環境が持つ多様な機能を活かしたグリーンインフラで、緑化重点地区内の緑のネットワークを強化し、歩きたくなる朝霞のまちなかづくり構想の「基本構造」として、駅前からシンボルロードにかけての歩行空間をグリーンインフラでつなぐ計画を策定した。
- ・ 対象地を緑化重点地区内の市道1000号線、駅西口富士見通線、庁舎前緑地、市道8号線とし、それぞれの現況の確認を行い、既存の施設や環境を十分に把握した上で、多世代が滞在できる、賑わいと憩いの拠点となるような公共空間の緑化の整備を検討を行った。

■緑化重点地区グリーンインフラ整備コンセプト

グリーンインフラでつなぐ、まちなかネットワーク

自然環境が持つ多様な機能を活かしたグリーンインフラで、緑化重点地区内のネットワークを強化します。回遊性の向上を図る沿道の連続性のある緑景観を形成します。

多世代が滞在できる、賑わいと憩いの拠点となるような公共空間の緑化を整備します。

雨水の浸透機能により、緑の醸成、水の循環、微気象の改善などまちなかの快適な空間づくりを行います。

駅西口富士見通線

○低未利用地

- ・賑わい広場の創出
- ・市役所通りと富士見通線を結ぶ空間構成
- ・植栽による緑景観づくり
- ・浸透舗装、植栽地による雨水の浸透機能向上

○車道、歩道部

- ・中木プランター設置で緑景観づくり

市役所

○庁舎前緑地

- ・生物多様性に配慮した水景整備
- ・市役所通りとシンボルロードを結ぶ景観づくり
- ・憩いの広場として活用
- ・浸透舗装、植栽地による雨水の浸透機能向上

○庁舎前駐車場

- ・レインガーデンによる雨水の浸透機能向上
- ・シンボルロードからの景観配慮

青葉台公園

朝霞の森

シンボルロード

市役所通り

朝霞駅

公園

市道8号線

- ・連続性のある緑景観のための補植整備

市道1000号線

- ・レインガーデンによる雨水の浸透機能向上
- ・連続性のある緑の景観づくり

■ 駅西口富士見通線 車道、歩道部

歩車道部のみどり空間を豊かにし、車中心から人間中心の空間への転換を後押しするウォークアブルな街路をつくりだす。
さらに低未利用地である2箇所を活用してポケットパークをつくることで「緑と憩いのみち」をつくりだす。
プランター等のファニチャーには県内産の木材を使用し、森林整備の促進、循環サイクルの成立に取り組む。

S=1/500(A3)
N 0 5 10 15 20 25 [M]



イメージ



※図版は報告書より抜粋

イ 黒目川沿いの緑のスポットをつなぐグリーントレイル化

- 黒目川遊歩道を中心として、黒目川沿いの緑のスポットをつなぐグリーントレイル化の検討を行った。
- 計画では良好な景観と視点場を活かしながら、既存の散策路との連携やシェアサイクルの活用、気軽に立ち寄れる休憩スペースとして、サインを併設したまちなかベンチの設定など多様な利用者に寄り添ったトレイルコースの検討を行った。

■「朝霞の散策路」を取り込んだトレイル化計画

朝霞市内で既に親しまれている「朝霞の散策路」（健康づくり課）との関係性を考慮し、それらとの連携やすみ分けを図り、市全体としての散策路の充実化を図ったトレイル化計画を行う。

<きらり健康づくり 朝霞の散策路>

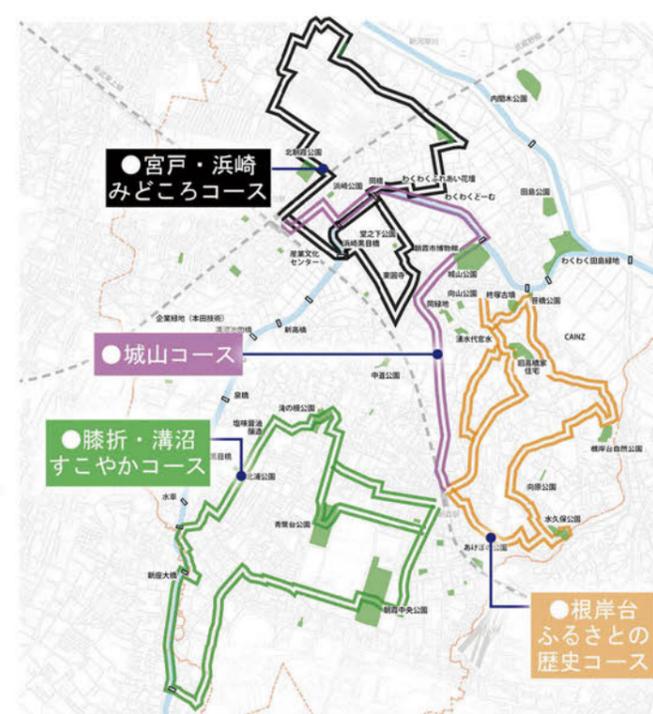
朝霞市内には朝霞市健康づくり課で設定されている4つの散策路「きらり健康づくり 朝霞の散策路」が既に利用されている。各散策路は、朝霞駅と朝霞台駅を拠点としており、朝霞市内を巡るそれぞれテーマを持たったコース設定がされている。

<既存の散策路の現状と課題>

「朝霞の散策路」では、朝霞市の広範囲に渡っており主要な見所を巡るコース設定がなされているが、東武東上線より西側の黒目川周辺地域（泉水地区、溝沼地区周辺）や、黒目川、新河岸川の合流地点付近の地区（田島地区、内間木地区付近）、朝霞台駅北西部の三原地区付近を含めたコース設定はされておらず、黒目川周辺地域をより広く散策できるようなルート設定が望まれる。

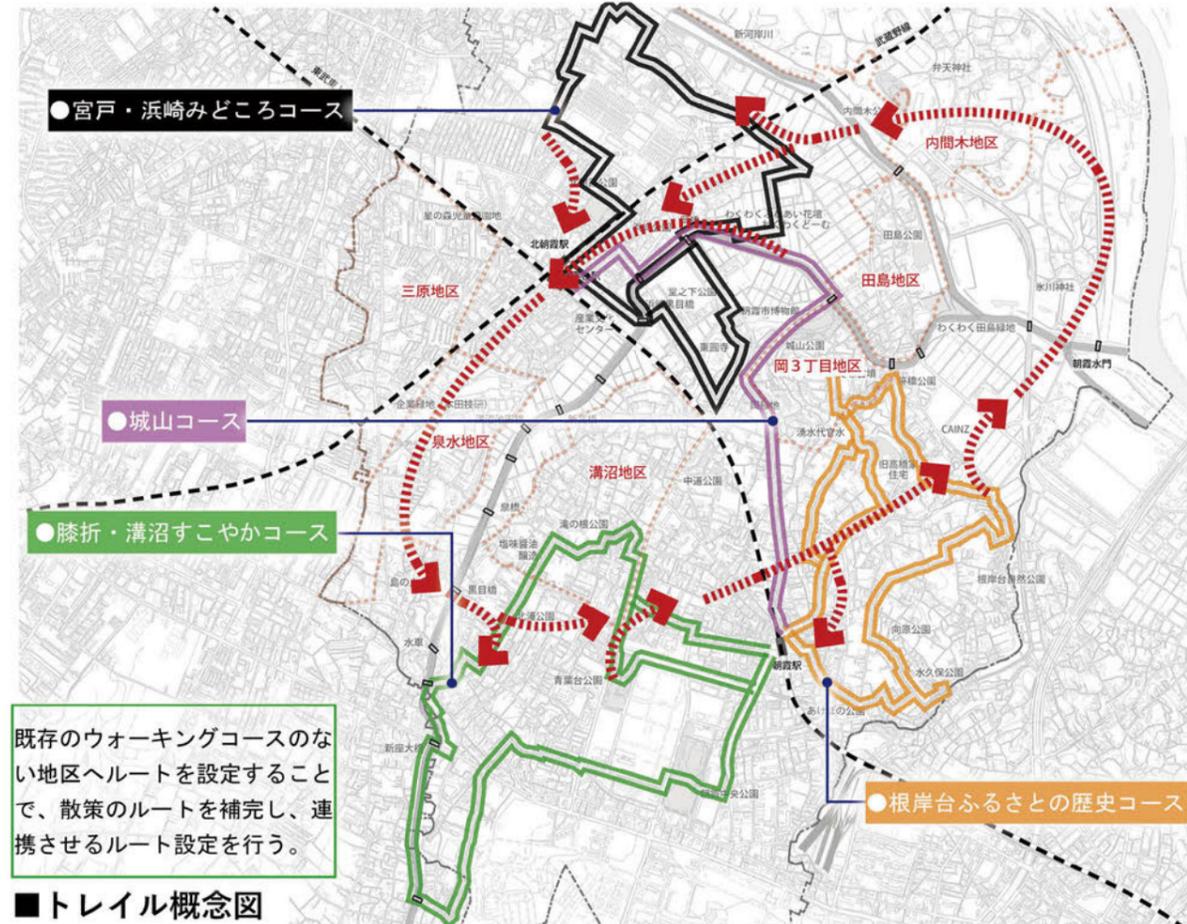
<朝霞の散策路との連携>

本計画では、既存の散策路で設定されていない地区のルートを補完し、新たに設定するトレイルと既存の散策路をつなぐことで、朝霞市を広範囲に楽しみながら様々な見所を巡り、市の新たな魅力も発見できるルート設定。また、駅から黒目川へのアクセス性も高めることができるトレイル化計画を行う。



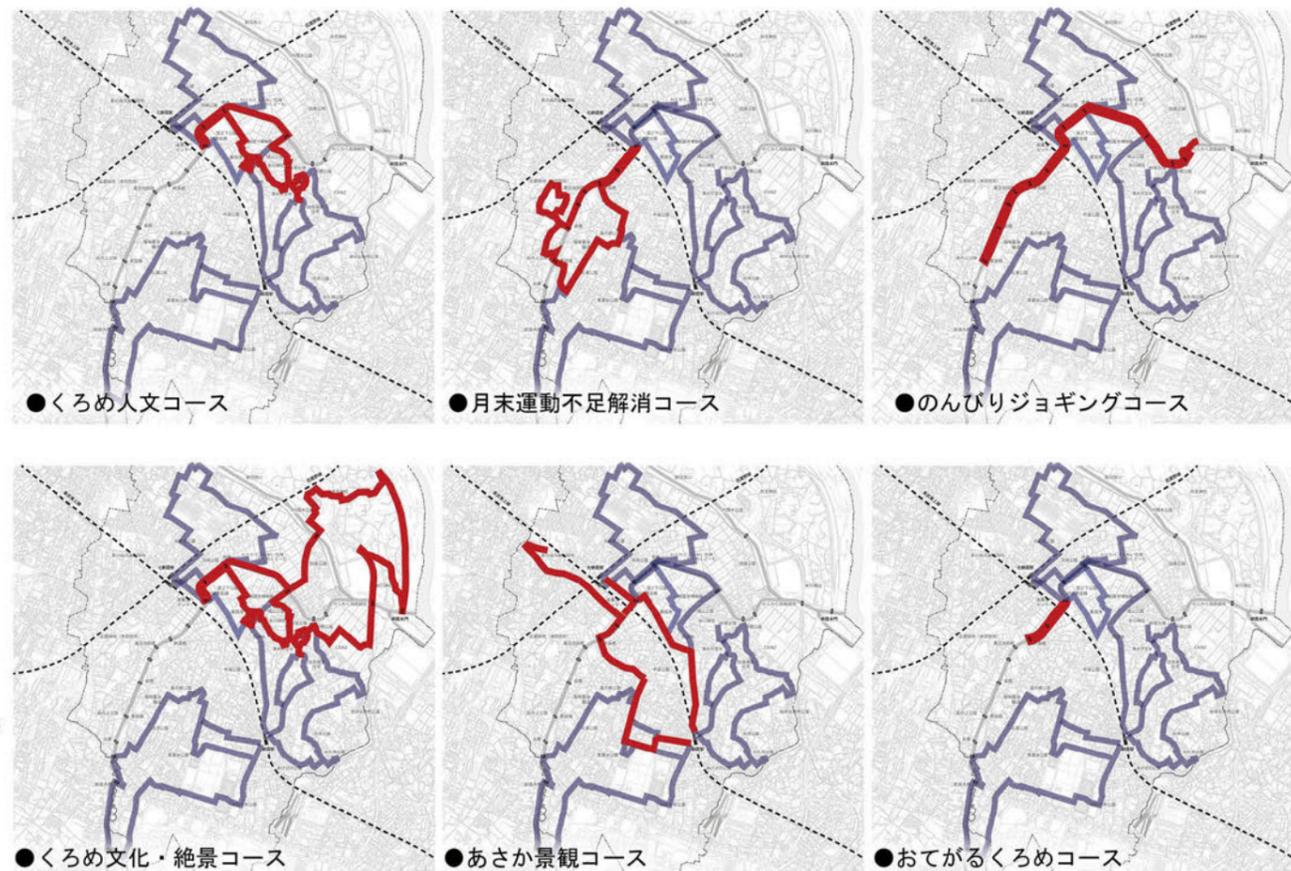
- 膝折・溝沼すこやかコース**
(距離：約7.3km 所要時間：約4時間)
・朝霞市南側の歴史的文化的資源や自然を感じながら朝霞駅を拠点に巡る心身の健康を図るコース。
- 根岸台ふるさとの歴史コース**
(距離：約5.6km 所要時間：約4時間)
・朝霞駅を拠点に、朝霞市東側の歴史的文化的財に触れ、朝霞市の歴史的な理解と郷土愛を育むコース。
- 宮戸・浜崎みどころコース**
(距離：約5.8km 所要時間：約5時間)
・朝霞台駅を拠点に朝霞市北側の歴史的文化的資源や交流施設を巡り、朝霞市内の歴史や人々の賑わいに触れるコース。
- 城山コース**
(距離：約4.6km 所要時間：約1時間)
・城山通りや黒目川などの朝霞市の自然を感じながら朝霞駅から朝霞台駅へと向かうコース。

■朝霞の散策路



■トレイル概念図

■朝霞の散策路と各トレイルコースの重ね図



※図版は報告書より抜粋

■ まちなかベンチ等休憩施設及びサインの検討

本計画で設定したトレイルコースでは、気軽に立ち寄れる休憩スペースとして、まちなかベンチの設定を行った。この休憩スペースではトレイルを案内するサインを設置し、トレイル利用者の利便性を向上させるものとする。

1) 計画地の現状

朝霞市内の屋外での休憩施設は公園内のベンチや駅前、シンボルロード周辺、黒目川の護岸の一部等に設けられており、クールオアシスや飲食店など休憩可能な民間施設も多く点在している。しかしながら、駅から黒目川に至る区間では、屋外の休憩スペースが少ない。本計画におけるトレイルコース、また、既存のコースの快適な利用に寄与する休憩スペースやコースを案内するサインの設定が求められる。

2) 配置方針

- ・多様な利用者を想定し、ユニバーサルデザインを前提とした空間とする。
- ・休憩スペースには共通の舗装を敷設し、歩道の一部に休憩スペースの舗装を滲み出させることで、歩道通行者、トレイル利用者が休憩スペースを認識しやすくする。
- ・休憩スペースの舗装面には共通してトレイルコース案内サイン（路面はめ込み式またはペイント）、朝霞市内を巡る各コースの紹介ページにアクセス出来るQRコードを設置する。
- ・比較的規模の大きい休憩スペースではコース全体案内サインを設置し、より多くの情報を共有できるようにする。

3) 休憩スペースのモデルプラン対象場所の選定

本トレイル化計画内において設定したまちなかベンチの配置案の中から、以下の場所を選定し、まちなかの空間を活かしたベンチ及びサイン設置のケーススタディを行った。

A. 城山通り歩道植栽帯（小）

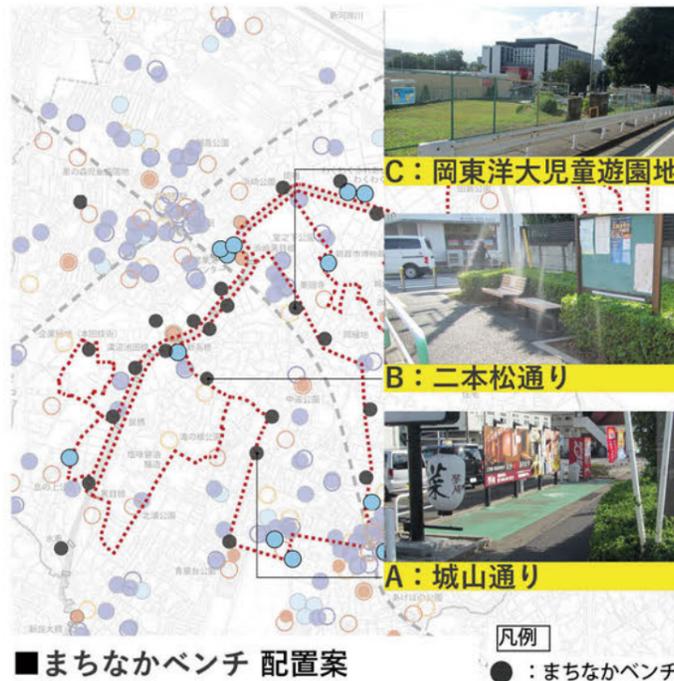
・朝霞市の骨格を形成する通り。
長いイチヨウ並木の植栽帯が続き、通りの周りには飲食店が連なるが、屋外で休憩出来る場所は少ない。

B. 二本松通り既設緑地（中）

・志木駅と朝霞駅を結ぶ通り。
交通量が多く、起伏の変化も激しい。坂の始まりにある既設の緑地にベンチが設置されているが、落ち着いた雰囲気ではなく、魅力に乏しい。

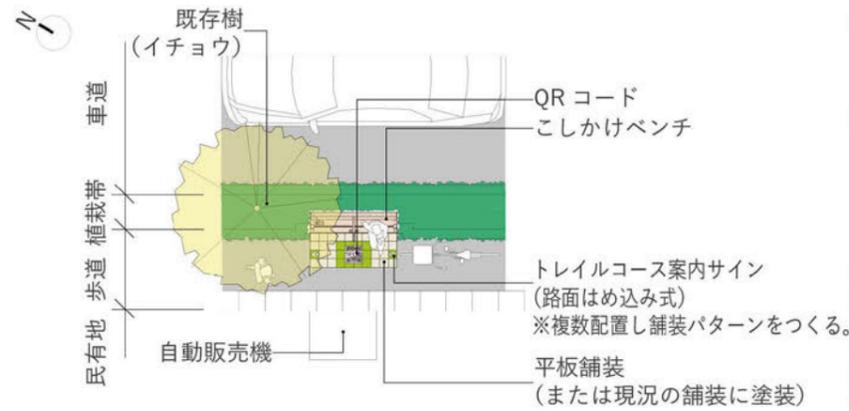
C. 岡東洋大児童遊園地臨接空地（大）

・東園寺西側にある児童遊園地に臨接した空地。
歩道に接して比較的広いスペースが確保出来る。
朝霞特有の起伏を感じる見晴らしの良好な場所である。



4) サインとまちなかベンチ設置のケーススタディ

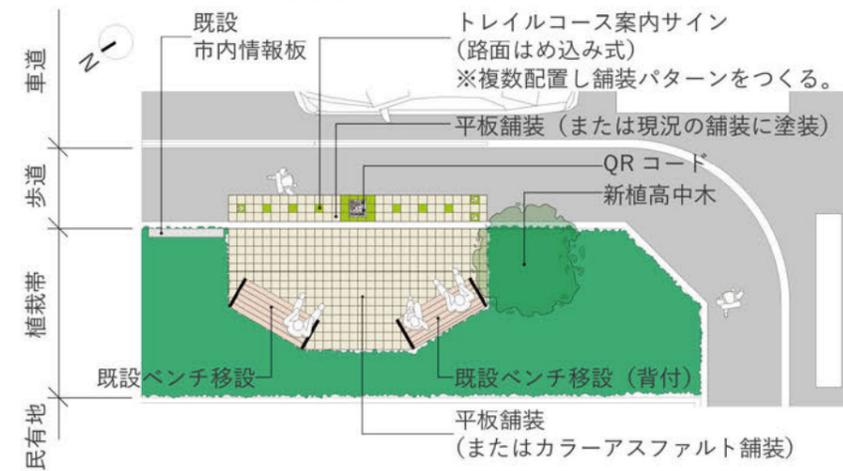
A. 城山通り歩道植栽帯（小）



- ①既存の植栽帯を利用し、小休憩が出来る場所。
- ②給水施設が近くにある場所や見晴らしの良い場所等への設置を行う。
- ③こしかけベンチの足元部分には休憩スペース共通の舗装を行うとともに、トレイルコースの方向を示すサインをはめ込む。



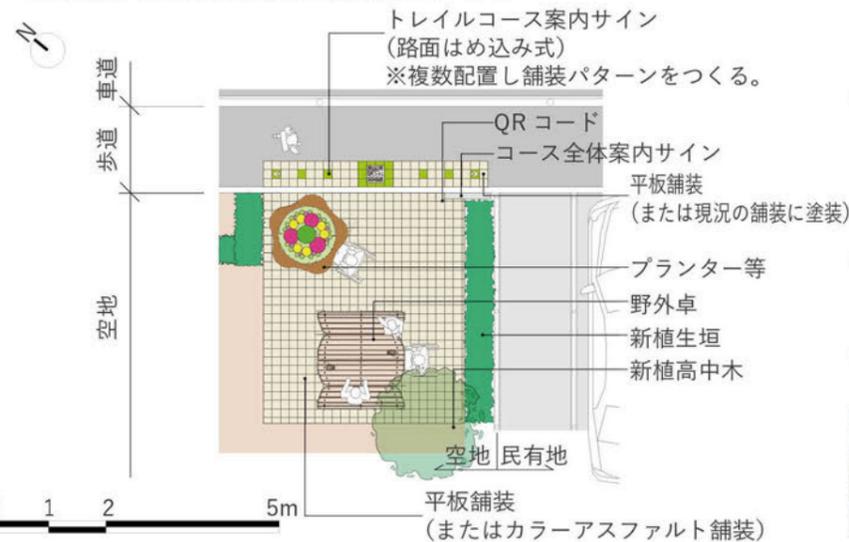
B. 二本松通り既設緑地（中）



- ①既設の緑地を利用し、複数の利用者が休憩出来る場所。
- ②舗装スペースを緑地内に拡張し、安心して休憩することが出来る場所を設ける。
- ③歩道側に舗装を拡張し、トレイルコース案内サイン（路面はめ込み式）を設置、コースの方向を示す。
- ④新植の高中木を植栽し、木陰で憩えるようにする。



C. 岡東洋大児童遊園地臨接空地（大）



- ①児童遊園地に臨接する空地を利用し、散策利用者が気軽にアクセスでき、ゆったりと憩える場所。
- ②トレイルコース案内サイン（路面はめ込み式）やQRコードの他、コース全体案内サインを設置し、朝霞市内のコースを案内する。
- ③プランターや高中木の新植など緑陰や目線を楽しませる緑を導入。
- ④民有地境界には生垣を植栽し、落ち着いた空間をつくる。



※図版は報告書より抜粋

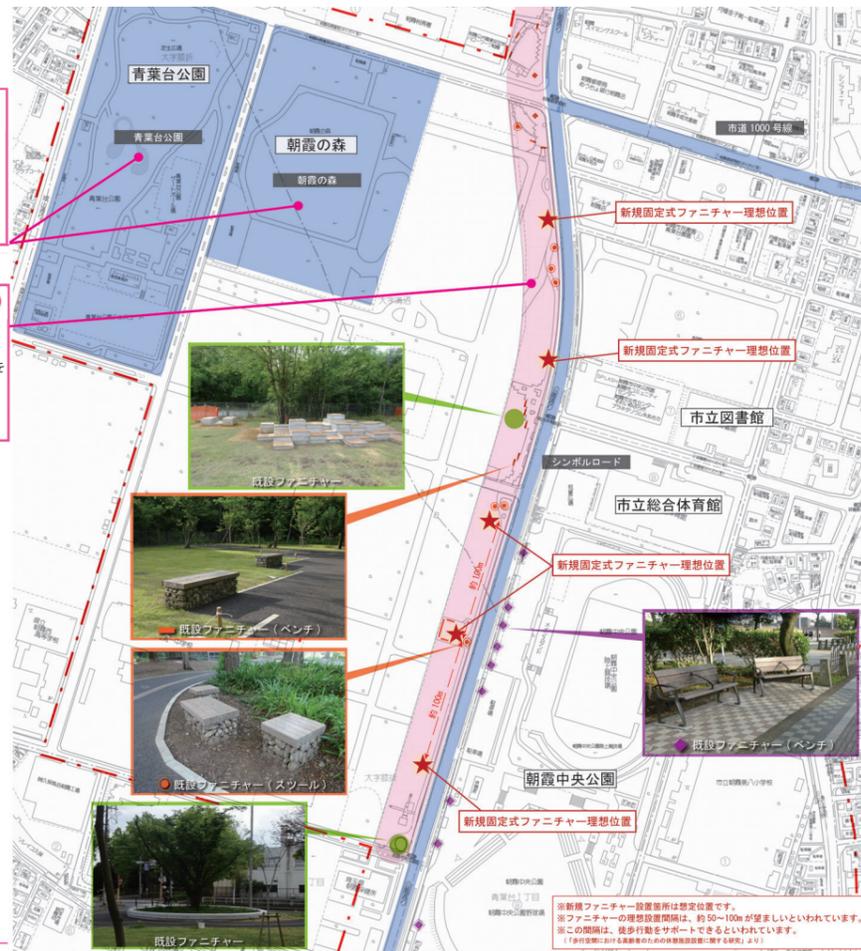
ウ まちなかベンチ等 休憩施設の検討

- ・主に朝霞駅南口駅前広場からシンボルロードにかけて、まちなかベンチや休憩施設の設置可能な場所を選定し、各空間に応じた休憩施設のタイプを検討した。
- ・駅前からシンボルロードに向かって休憩施設を散りばめることで、まちなかの回遊動線を強化し、ウォーカビリティの向上を図りました。

■休憩施設の設置イメージ

②
朝霞の森・青葉台公園
様々なイベントやプログラムで手作りしたファニチャーを利用します。作ったものを使うからその親しみのある空間をつくります。

①②④
シンボルロード
既存の固定ファニチャーを展開します。イベント開催時は芝生広場や木々の間を活用した可動式ファニチャーで植物との関わりを大切に賑わいをつくります。通常時は固定式ファニチャーで憩いの空間をつくります。

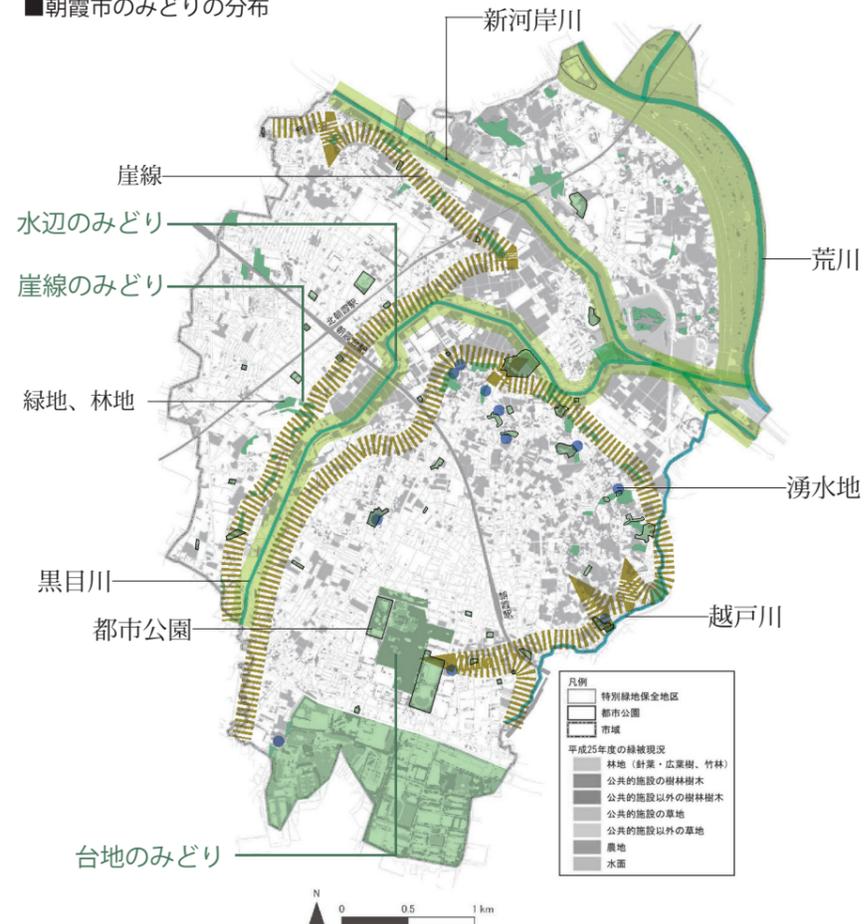


(2) 緑空間の魅力向上方策の検討

ア 緑地保全及び緑化空間、公園緑地の現状の課題を抽出し、その改善の提案

- ・朝霞市には多様な自然環境が残り、市街地には都市公園などの緑豊かな環境が存在しているが、一方で樹林地や農地は年々減少が続いており、良好な景観形成の観点から緑と水辺の重要性はさらに高まっている。
- ・市の貴重なみどりを保全していくことに加え、質の維持、向上を図っていくため、みどりの現状について課題の抽出を行い、改善方策の検討を行った。

■朝霞市のみどりの分布



・朝霞市を構成するみどりは、大きく水辺、崖線、台地の3つのみどりで構成されていることが特徴となっており、朝霞市の自然の魅力となっている。



黒目川、新河岸川、荒川周辺には優れた景観や市民の憩いの場となっている親しみのあるみどりがある。



崖線沿いに残されている雑木林は、立面的に視認でき、量感を感じさせる貴重なみどりとして残されている。



朝霞の森を中心とする市の中心部のみどりは、みどりの朝霞を印象づける市民のシンボルとして存在している。

※図版は報告書より抜粋

イ 公園の禁止看板等サインの改善の提案

- 公園のサイン改善の提案にあたっては、市内公園 41 か所についてサインの内容、位置などの現況調査を行った（現況調査：2020年11月18日）。
- その調査を踏まえ、改善方針の検討とそれを展開するためのモデル公園として3公園を抽出し、デザイン等の検討を行った。

※ここでは3公園のうち、青葉台公園についての検討結果を次ページに示す。

■現況調査と課題の抽出

(1)現況調査

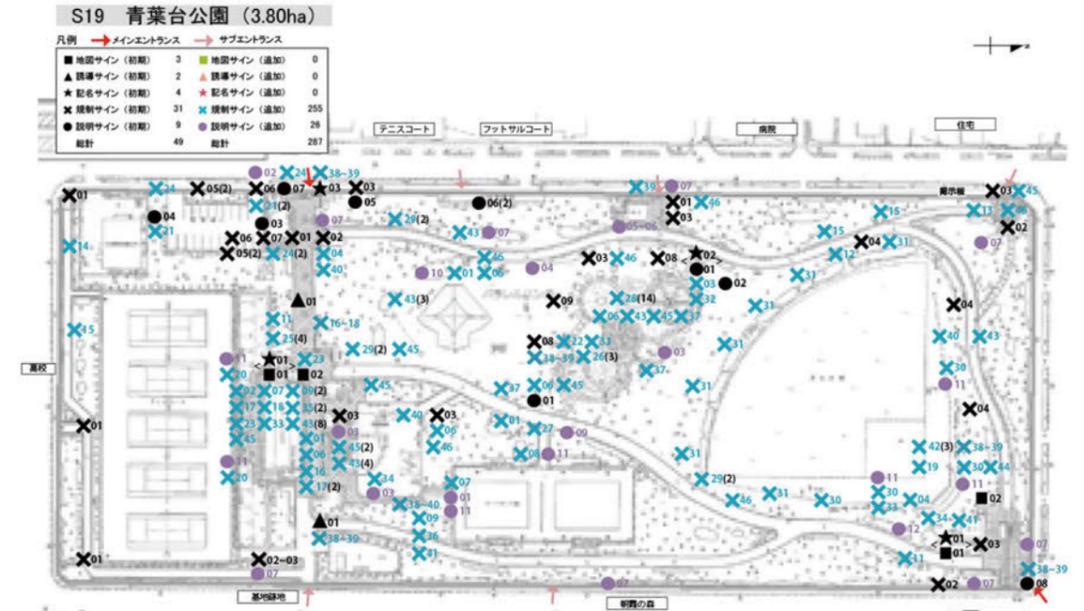
朝霞市内 41ヶ所の都市公園のサインについて、サイン機能と整備状況の観点で調査を行いました。

各公園に設置されているサインを地図サイン・誘導サイン・記名サイン・規制サイン・説明サインといったサイン機能で分類し、さらに竣工時に整備されたサイン（初期整備）と竣工後に整備されたサイン（追加整備）で整備状況の分類を行いました。

調査結果に基づき、全公園のサインプロット図とサインリストを作成しています。(06. 参考資料参照)

■サインプロット図・サインリスト イメージ (ex. 青葉台公園)

サイン機能	整備状況	
	初期整備	追加整備
地図サイン	■	■
誘導サイン	▲	▲
記名サイン	★	★
規制サイン	✕	✕
説明サイン	●	●



(2)課題の抽出

現況調査の結果から、現状のサイン整備における課題を抽出しました。調査から判明したサイン整備の現況と課題は以下の通りです。

①現況

〈サイン機能〉

- 経年変化により劣化が目立つ。
- デザインのルールが統一されていない。
- 多言語化されていない。
- デザインの独自性がない。
- 管理者側からの一方向的な情報発信となっている。

〈整備状況〉

- 初期整備サインより、追加整備のサインが圧倒的に多い。
- 初期整備サインはハードに関するサイン（施設名など）が多く、公園の出入口付近に多く設置されている。
- 追加整備サインは主にソフトに関するサイン（公園利用に関するもの）で、規制や禁止に関する内容のものが多い。公園内で必要な場所に設置されている。
- 特に追加整備サインに関して、設置のルールが明確でない。
- 追加整備サインは規格や素材などが統一されておらず、美観を損なっている。
- 後付けのサインが乱立することで情報が煩雑になり、情報伝達効果を薄れさせている。

②サイン整備の課題

- 経年変化による劣化やデザインの不統一、乱立による分かりづらさを改善し、**視認性**を高める。
- 追加整備のサインが多く設置されていることから、利用状況の変化に対応できるよう**柔軟性**を持たせる。
- 利用の制限や禁止だけを伝達するのではなく、「公園でできること」や**公園の魅力**を伝達する。
- 画一的なデザインではなく、公園の規模や利用状況などに適した**可変的なデザイン**の展開を図る。



※図版は報告書より抜粋